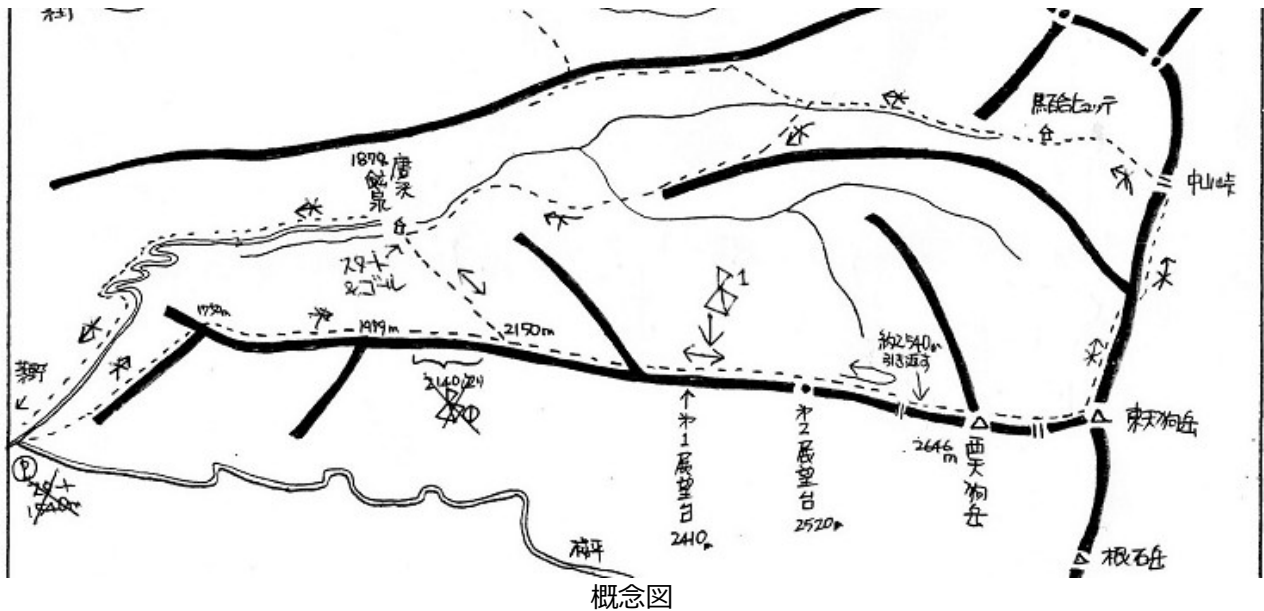


八ヶ岳 天狗岳西尾根

2014年12月29日(月)~30日(火)

メンバー：磯部S (リーダー)、平川、宮本



前夜出発。甲府方面から小淵沢に向かう途中、雪が降ってきた。たぶん山は既に降り続いているだろう。仮眠場所も、当初予定していた屋根のない茅野市総合公園駐車場ではきついため、小淵沢ICで降り、道の駅葛木宿に変更した。

12/29 (月) 曇り時々雪

快適な屋根の下でテン泊。翌朝辺り一面真っ白となり、一晩で10cm近く積もった。明日の天気も西高東低にはなるが、等圧線もまばらであり安定しているとは言い難い。西尾根末端からのラッセル三昧も良いが、まず登頂は不可能だ。唐沢鉱泉から西尾根中間部を目指すルートも視野において、各登山口状況で判断することとした。



唐沢鉱泉前の駐車場

街中で幾台もの除雪車を見かけながら、雪原となった山麓を目指す。

西尾根末端の通称“山の神”はやはりノートレース、しかもここで膝下の積雪だったため、スタート地点はやはり唐沢鉱泉に変更した。

そこからさらに高度を稼ぐと、車1台しかいない、雪に埋まった唐沢鉱泉前の駐車場に着いた。

まずはここから除雪かよ〜と落胆していたら、奥に除雪車がリターンしたスペースがありそこを使わせてもらうことにした。

ちなみに簡易トイレはあったがそこに到達するのにも雪かきが必要で前途多難を漂わせている。

1台いた車の持ち主は、渋ノ湯から下山してきて、いよいよ西尾根に食らいつくのは私たちだけかと、うれしいような悲しいような・・・。

案の定、登山口からきれいな新雪を踏みしめ登り始める。夏ルートでもあるため樹林帯に伐採の空間があり迷うことはない。

新雪の2、30cm下には踏まれて少し固いところがあるため、そこを探りながら登ればワカンを着ける必要はなかった。



西尾根に向かう途中。まだ余裕。

夏コースタイムの倍以上かかって、西尾根に到達。ここからさらに雪は深くなり、ワカンを装着する。狭くない尾根はルート取りが難しくなる。軌跡をたどることができれば膝下だが、ピッケルを刺しても固い層に到達しない箇所もあり、運が悪いと腰まで潜って雪の海を泳ぐことになった。第一展望台（といっても全く何も見えず）を過ぎ、すぐの樹林帯の中でほどよく広い好適地を見つけ行動を終了した。乾いた新雪は踏んでも踏んでも固まらず整地に苦勞し、テントに潜り込んだときはすでに午後 4 時を回ってしまった。



雪深い西尾根。



第一展望台。結局2日間何も見えず・・・。

<タイム> 唐沢鉱泉P (10:30) - 西尾根合流点 (12:30) - 第一展望台先テントサイト (15:00)

12/30（火）曇り時々風雪

若干の期待むなしく、やはり低圧部ができたであろう朝から厚い曇り空である。この時点で周回をあきらめ天狗岳ピストンに切り替える。

身軽になってまた今日も雪がちらつく中、ラッセルが始まった。第二展望台を過ぎしばらくすると、西天狗岳への登り返しとなるコル手前で視界が開けた。

といっても樹林帯が切れただけで前には見えるはずの天狗岳への岩と氷の斜面が風雪の中に消えていた。真っ白である。あの中を往復2時間は厳しい。

メンバーに登頂はほぼ断念せざる得ないことを告げた。



新人ラッセルがんばる

そのうち後から、数人の登山者が現れた。日帰り装備で今朝唐沢鉱泉を出てきたとのこと。これがラッセル後先の違いかと驚きながらも、ここまで自分たちだけで到達できたことに充実感を得る。

しばらく安全地帯で状況変化を探り待機するも、好転の可能性は見いだせず、かといって時間はたっぷりあったため即撤退にはもったないため、風雪の稜線をちょっとでも体験するため行けるところまで進むことにした。



西天狗岳直下、氷の岩稜帯。逃げるように撤退。



もうすぐ天国の樹林帯

アイゼンに代え下ってすぐ一箇所、10m弱の細い雪稜のトラバースは風の通り道で風雪厳しく、最初の洗礼を受ける。冷たくかつ痛い。

深い雪の尾根を時折格闘しながら越えると樹林帯を抜け、いよいよ天狗岳に向かった最後の登りだ。赤布を最後の木に縛り付け、岩とクラストした雪のミックス帯をアイゼンを効かせながら風雪の中を進む。視界は10mほどか、振り返るともう赤布は白い闇に消えていた。じきに撤退を指示、樹林帯に戻って天国と地獄を実感。



快適なテントサイトで。女性に写されると、どや顔の二人

下りはあっという間だ。ばりばりのテントを撤収し、U字溝のようなルートを滑るように降りた。北八つといえども、天気が悪ければ自然が本性むき出しで襲ってくる。新人にとってはたった一泊だったが、雪山の2面性を垣間見ることができて良い勉強になったことと思う。

<タイム>テントサイト(7:50) – 西天狗岳直下約2540地点(11:20) – 唐沢鉱泉P(15:00)

(磯部S記)

以上